

蘭牟田池

(いむたいけ)

位置：北緯31度49分、東経130度28分／標高：296m／面積：60ha／湿地のタイプ：淡水湖(火口湖)、低層湿原／保護の制度：生息地等保護区管理地区(種の保存法)／所在地：鹿児島県薩摩川内市／登録：2005年11月／国際登録基準：2

湿地のタイプ：淡水湖、低層湿原



蘭牟田池の全景

ベッコウトンボ

湿地の概要：

蘭牟田池は、鹿児島市の北西25km、薩摩川内市を流れる川内川の上流部の山中にある面積60ヘクタールの湖。飯盛山の噴火でできた火口部に水がたまってできた、火口湖である。

水面部の標高は296m。周囲を標高400～500mの山々に囲まれ、山頂部の湖側、つまり火口壁の内側は、急な崖状になっている。流入河川はなく、流出河川は1本だけ東側から流れ出している。

蘭牟田池は、周囲4kmのほぼ丸い形をした小さな湖である。湖の北西部には泥炭層が堆積し、低層湿原になっている。比較的温暖な気候のこの地域では、珍しい泥炭質の浮島が多く見られることから、泥炭形成植物群落が国の天然記念物にも指定されている。

水深の浅い静かな環境：

最大水深2.7m、平均水深0.8mの浅い湖で、周囲に人家もわずか数戸しかなく、静かな環境にある。湿原にはヨシやマコモが繁茂する。カルガモやカイツブリなどの水鳥、メダカやオイカワなどの魚類など、多くの生きものたちがここで生活している。

トンボの池：

蘭牟田池を代表する生きものは、止水

性のトンボである。トンボの産卵と羽化に適した環境のこの池には、ベッコウトンボ、オオヤマトンボ、マイコアカネ、ベニトンボ、チョウトンボなど多くのトンボが生息する。

日本には約200種のトンボ類が生息している。蘭牟田池には54種が確認されており、なかでもベッコウトンボは、絶滅の危機に瀕している湿地性トンボ類の筆頭にあげられ、蘭牟田池はその限られた生息地となっている。

地元ではベッコウトンボを保護する会やいむた池愛好会といった団体が活動しており、湖畔には普及啓発のための生態系保存資料施設「アクアタイム」が設置されている。池の西側にはベッコウトンボの生息環境を維持するためにビオトープが造成され、環境学習の場としても利用されている。ベッコウトンボの生息地としても重要な泥炭形成植物群落の保護のため、釣りやボートによる湖面利用についてはゾーニングが設定されている。ベッコウトンボの捕食が懸念される外来魚類に対しては、市の条例によって釣りなどにより捕獲した際の再放流が禁止されており、回収ボックスが設置されている。

ベッコウトンボ：

体長4cm前後。茶褐色(べっこう色)の



羽に黒褐色の斑紋が特徴。植生の豊富な湿地環境を好み、かつては本州、四国、九州に広く分布していたが、現在は繁殖地はごく限られている。

●関係自治体

薩摩川内市役所 Tel: 0996-23-5111

